

- 問1 1872年に明治政府が公布した、日本最初の近代的で統一的な学校制度を何というか、名称を答えなさい。 (2020年 愛知公立入試 類似)
1. 学制 2. 教育基本法 3. 義務教育令 4. 学校教育法
-
- 問2 明治時代初期、政府は「文明開化」のスローガンのもと、人々の服装や髪型を西洋風に変え、都市部にレンガ造りの建物を建てるなど、社会の仕組みを大きく変化させました。こうした中、1872年(明治5年)に実施された、それまでの太陰太陽暦を廃止し、西洋諸国と共通の基準を取り入れた改革はどれですか。 (2025年 岡山公立入試 類似)
1. 太陽暦の採用 2. 飛脚による通信網の全国整備 3. 五街道の整備と宿場町の拡充 4. 藩校における伝統教育の強化
-
- 問3 明治政府が1872年に鉄道を敷設したり、大規模な官営模範工場を設立したりした歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 大阪公立入試 類似)
1. 欧米諸国に対抗し、経済を発展させて不平等条約の改正などを進めるため 2. シベリア出兵に必要な軍需物資を迅速に輸送する体制を整えるため 3. ラジオ放送を通じて、新しい政府の政策を全国に普及させるため 4. 八幡製鉄所で生産された鉄鋼を、海外へ大量に輸出する経路を確保するため
-
- 問4 明治政府が地租改正において、税率を「収穫量」ではなく「地価(土地の価格)」に基づき、さらに「現金」で納めさせるようにした最大の目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)
1. 天候による豊作や不作に左右されず、政府の収入を安定させるため 2. 農民の税負担を大幅に軽減し、農業の近代化を促進するため 3. すべての土地を国有化し、政府が直接農業経営を行うため 4. 江戸時代から続く身分制度を維持し、武士の特権を守るため
-
- 問5 大日本帝国憲法における、天皇の地位と権限に関する記述として最も適切なものを選択してください。 (2026年 青森公立入試 類似)
1. 天皇は国の元首であり、統治権を総攬(すべてあわせ持つ)する立場とされた 2. 天皇は国政に関する権限を持たず、日本国および日本国民統合の象徴とされた 3. 天皇は行政権のみを持ち、立法権は帝国議会が独立して行使するものとされた 4. 天皇の権限は内閣の助言と承認に基づく儀礼的なものに限定されていた
-
- 問6 明治初期、銀座に煉瓦造りの建物が並んだり、人々の間で牛鍋を食べる習慣が広まったりするなど、西洋の文化や生活様式が積極的に取り入れられて社会が大きく変化した現象を何といいますか。 (2025年 北海道公立入試 類似)
1. 文明開化 2. 殖産興業 3. 富国強兵 4. 廃藩置県
-
- 問7 明治政府が「国民皆兵」を掲げて1873年に発布した法令について、その内容を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 歴史公立入試 類似)
1. 満20歳以上の男子に対し、士族や平民の区別なく兵役の義務を課した。 2. 士族のみを対象として近代的な軍事訓練を行い、特権的な地位を維持させた。 3. 土地の所有者に地券を交付し、収穫量ではなく地価に基づいて現金を納めさせた。 4. 武士の特権であった帯刀を禁止し、警察官や重人以外が刀を持つことを禁じた。
-
- 問8 1876年に日本と朝鮮の間で締結された日朝修好条規において、日本人が朝鮮の貿易港で罪を犯した際、朝鮮側の法律ではなく日本側の官吏が裁判を行うことを認めた権利を何というか、書きなさい。 (2019年 歴史公立入試 類似)
1. 領事裁判権 2. 関税自主権 3. 最恵国待遇 4. 駐留権
-
- 問9 明治政府が1872年に新橋・横浜間で鉄道をいち早く開通させた、当時の社会的な背景や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2020年 熊本県公立入試 類似)
1. 物資や兵員の迅速な輸送を可能にし、産業の発展と国力の強化をはかるため 2. 全国の街道にある宿場町を保護し、馬車による輸送を補完するため 3. 江戸時代の参勤交代の制度を維持し、諸大名の移動を容易にするため 4. 鎖国体制を維持するために、外国人の移動を特定の区間だけに制限するため
-
- 問10 明治初期の職業の変化に関する資料によると、江戸時代から続いた通信手段である「飛脚」が急速に姿を消したことが示されています。このように、旧来の仕組みを廃止して新たに郵便制度を導入した目的や特徴として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 奈良公立入試 類似)
1. 飛脚の組織をそのまま利用し、電話機を各家庭に普及させることで通信速度を向上させた。 2. 国家による一元的な組織として整備し、距離に関わらず均一の料金で手紙を運ぶ仕組みを確立した。 3. 飛脚を民間の運送会社として再編し、藩ごとに異なる料金体系を手紙を運ぶようにした。 4. 蒸気船の普及に合わせて海上通信を優先するため、陸上での手紙の配達を一時的に制限した。
-
- 問11 明治時代初期、群馬県に設立された官営模範工場では、多くの女性たちが並んで座り、機械を用いて生糸を紡ぐ作業に従事していました。この工場や当時の状況について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)
1. 全国から集まった士族の娘らが工女として働き、習得した技術を地元を持ち帰って製糸技術の普及に貢献した。 2. 日清戦争の賠償金をもとに建設され、鉄鋼の国産化を実現することで日本の重工業の発展を支えた。 3. 民間企業が経営し、深夜営業を含む過酷な労働環境によって綿糸の輸出量を飛躍的に増大させた。 4. 周辺地域で大規模な鉱毒事件が発生し、田中正造がその被害を訴えて議会で政府の責任を追及した。
-
- 問12 1871年、明治政府はそれまでの藩を廃止して県を置く「廃藩置県」を断行しました。この改革が行われた最大の目的は何ですか。最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 山形県公立入試 類似)
1. 中央政府が全国を直接支配する中央集権国家を確立するため 2. 旧大名の領地支配を認め、地方の軍事力を強化させるため 3. 徴兵令を施行し、国民による近代的な軍隊を組織するため 4. 江戸時代の身分制度を廃止し、四民平等の社会を実現するため
-
- 問13 1873年から実施された地租改正において、それまでの年貢(租税)の制度と大きく異なる点として正しい説明はどれですか。 (2026年 山形公立入試 類似)
1. 豊作や凶作によって変動する収穫量を基準にするのではなく、土地の価値である地価を基準とし、現金で納めるようになった。 2. 土地の面積のみを基準とする仕組みに変わり、収穫した米を直接政府へ納める物納の制度が強化された。 3. 村全体で一括して税を納める仕組みを廃止し、収穫量の3パーセントを基準として米で納めるようになった。 4. 身分によって税率が異なる仕組みを廃止し、全ての国民が所有する農具や家屋の数に応じて現金で納めるようになった。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 学制	明治政府は、欧米列強に対抗できる近代的な国家をつくる（富国強兵・殖産興業）ためには国民全体の知識向上が不可欠であると考えました。そのため、1872年に日本で初めての体系的な教育制度を定め、身分や性別に関わらず全ての国民が教育を受けることを目指しました。戦後の教育基本法などと混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 1 太陽暦の採用	明治政府は、欧米諸国との外交や貿易を円滑に進め、日本が近代国家であることを示すために、1872年にそれまでの太陰太陽暦（旧暦）を廃止しました。この改革により、1日24時間、1週間7日といった西洋式の時間管理が国民の生活に浸透することとなりました。選択肢にある飛脚や五街道の整備は、むしろ江戸時代から続く制度や交通網に関する内容であり、文明開化による近代化の方向性とは異なります。
問3	答え 1 欧米諸国に対抗し、経済を発展させて不平等条約の改正などを進めるため	明治政府にとって、幕末に結ばれた不平等条約の改正は悲願でした。そのためには、日本が欧米並みの近代国家であることを示す必要があり、鉄道などのインフラ整備や官営工場の設立（殖産興業）を通じて、経済力と技術力を急速に高めようとしたのです。シベリア出兵は大正時代、ラジオ放送の開始は1925年、八幡製鉄所の操業は1901年であり、明治初期の状況とは異なります。
問4	答え 1 天候による豊作や不作に左右されず、政府の収入を安定させるため	江戸時代の年貢は収穫された米の量に応じて納められていたため、凶作の年には政府の収入が激減するという不安定さがありました。地租改正によって、土地の価格を基準とした定額の現金を納めさせる仕組みに変えたことで、天候に関わらず毎年一定の予算を確保することが可能になりました。
問5	答え 1 天皇は国の元首であり、統治権を総攬（すべてあわせ持つ）する立場とされた	大日本帝国憲法第4条には「天皇は国の元首にして統治権を総攬し」と明記されていました。これにより、陸海軍の指揮権（統帥権）や官吏の任命権など、広範な権限が天皇に帰属する仕組みとなっていました。これは主権が国民にある現在の日本国憲法とは大きく異なる点です。
問6	答え 1 文明開化	西洋の文化や技術を取り入れて日本の生活を近代化しようとした動きを指します。煉瓦街の建設や肉食（牛鍋）の普及はその象徴的な例です。選択肢にある殖産興業は近代産業の育成、富国強兵は経済と軍事の強化を目的とした政策であり、これらとは区別して理解する必要があります。
問7	答え 1 満20歳以上の男子に対し、士族や平民の区別なく兵役の義務を課した。	明治政府は、強大な外国勢力に対抗できる近代的な国家をつくるため、1873年に徴兵令を發布しました。これにより、江戸時代まで軍事に従事していた士族だけでなく、平民も含めたすべての国民に兵役の義務が課されることとなりました。これは四民平等の精神に基づく改革の一部でもあります。
問8	答え 1 領事裁判権	日朝修好条規は、江華島事件を契機に日本が軍事的な圧力をかけて朝鮮に結ばせた不平等条約です。条文の第10款には、日本人が朝鮮で罪を犯した場合に日本の領事が裁判を行う権利が明記されました。これは、かつて幕末に日本が欧米諸国との間で結ばされた不平等条約の内容（治外法権）を、今度は日本が朝鮮に対して一方的に押し付けたことを意味しています。
問9	答え 1 物資や兵員の迅速な輸送を可能にし、産業の発展と国力の強化をはかるため	明治政府は「富国強兵」をスローガンに掲げ、欧米列強に対抗できる近代国家を目指しました。鉄道の建設は、それまでの徒歩や馬による輸送に比べ、大量の物資や人員を高速で運ぶことを可能にするインフラ整備の要でした。これは国内の流通を活性化させて産業を育てるだけでなく、国家としての統治能力や防衛力を高めるという重要な目的がありました。
問10	答え 2 国家による一元的な組織として整備し、距離に関わらず均一の料金で手紙を運ぶ仕組みを確立した。	明治政府は中央集権化を進める過程で、情報の伝達を国家が管理・保証する必要があると考えました。それまでの飛脚は距離や難易度で料金が異なる不定期なものでしたが、郵便制度の導入により、全国一律の安い料金で確実な通信が可能になり、近代的な社会の形成に大きく寄与しました。
問11	答え 1 全国から集まった士族の娘らが工女として働き、習得した技術を地元を持ち帰って製糸技術の普及に貢献した。	富岡製糸場は単なる生産施設ではなく、西洋の近代的な製糸技術を全国に広めるための「模範」としての役割を持っていました。そのため、全国から士族の娘などが工女として集められ、彼女たちが技術を習得して故郷に戻ることで、日本の製糸業全体の近代化が進みました。他の選択肢は、八幡製鉄所や足尾銅山、民間の紡績業に関する記述です。
問12	答え 1 中央政府が全国を直接支配する中央集権国家を確立するため	明治政府は、1869年の版籍奉還によって土地と人民を形式的に天皇に返還させましたが、実際には旧大名が知藩事として引き続き各地を統治しており、政府の支配力は不十分でした。そこで、藩を廃止して新たに中央政府から府知事や県令を派遣することで、政府が全国を直接統治できる仕組みを作り、中央集権国家の確立を目指しました。徴兵令や身分制度の改革（四民平等）も明治維新の重要な改革ですが、廃藩置県そのものの直接的な目的は、地方統治の仕組みを根本から変え、中央政府の権限を強めることにあります。
問13	答え 1 豊作や凶作によって変動する収穫量を基準にするのではなく、土地の価値である地価を基準とし、現金で納めるようになった。	明治政府は、政府の収入を安定させるために地租改正を行いました。江戸時代の年貢は収穫量に応じて変動する「米による物納」でしたが、この改革によって、土地の価格である「地価」を課税基準とし、天候などの影響を受けない「現金による金納」へと改められました。これにより、政府は毎年の予算を立てやすくなりました。